

	岡山大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工学部（第1年次:460 第3年次:30） 環境理工学部（第1年次:150） 大学院自然科学研究科（M:395 D:69） 大学院環境生命科学研究科（M:159 D:42）
沿 革	昭和24（1949）年 新制岡山大学創立 昭和35（1960）年 工学部設置 昭和46（1971）年 大学院工学研究科修士課程設置 昭和62（1987）年 大学院自然科学研究科博士後期課程設置 平成6（1994）年 教養部を廃止し、環境理工学部設置 平成11（1999）年 大学院工学研究科を廃止し、大学院自然科学研究科博士前期課程設置 平成17（2005）年 大学院環境学研究科博士前期・後期課程設置 平成24（2012）年 大学院環境生命科学研究科博士前期・後期課程設置
設置目的等	<p>昭和35年、地元産業界からの強い要請並びに全国的な理工系卒業者の需要増大という社会情勢、科学振興という国家政策を背景として、工学部が設置された。</p> <p>昭和46年、研究能力のある高度技術者及び研究者を育成し、我が国の工業技術進歩発展並びに地元工業界へ寄与することを目的に工学研究科修士課程が設置された。</p> <p>昭和62年、理学、薬学、工学、農学研究科を基盤とした広い視野から新しい学問体系の組み立てを行うことを目的に、自然科学研究科博士後期課程が設置された。</p> <p>平成6年、自然環境、人間環境及び社会環境に関する研究を学際的な立場から集大成し、自然と人間が調和した豊かで快適な環境を創造するための学術研究、教育を行うことを目的に、環境理工学部が設置された。</p> <p>平成11年、専門性の深化と学際性の幅を広げることを目的に、自然科学研究科博士前期課程・後期課程に改組された。</p> <p>平成17年、環境分野の教育研究を、持続可能な循環型社会構築と安全・安心の社会実現という理念の下で再構築し、美しく豊穡な国土と風土の形成、健康で安心な生活空間の構築、並びに合理的な物質循環システムの確立を目的として、環境学研究科博士前期課程・後期課程</p>

	<p>が設置された。</p> <p>平成24年、生産環境の保全・管理と連携した農業生産技術の研究開発を目指すために環境系分野との連携を図ることを目的に、環境生命科学研究所が設置された。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>岡山大学は、主に中国・四国・近畿の地域からの至便なアクセスを活用して、工学分野における高度な教育の機会を広域に提供し、各分野独自の教育研究だけではなく、総合大学の特徴を生かし、異分野融合による新しい分野の創出を目指して教育研究に取り組んでおり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 社会の中で指導的役割を果たし、国際的にも活躍できる「研究者及び研究マインドを持った高度職業人」の育成を理念として、高度な技術者等の育成とともに、研究能力を有する人材育成の役割を果たす。 ○ 瀬戸内圏を中心とする企業との協同によるエンジニアリングデザイン能力の養成プラン（長期インターンシップ）など、特色ある教育改革を進めてきた実績を生かし、国際的水準を踏まえた教育改革を進め、グローバルに活躍できる工学系人材を育成する一貫的な学部・大学院教育を目指して不断の改善・充実を図る。また、専門分野に特化した教育のみならず、工学分野の内外の分野との異分野融合教育として、学生のコミュニケーション能力を高め、分野を横断的に扱う工学分野共通コア教育や経済学分野との融合教育などを実施する。さらに、高度な教育と先進的研究を維持・推進するために、教員評価の充実と教員の質向上を図る。 ○ 生物機能分野をはじめとする高い研究実績を生かし、先端的な研究の積極的な展開を図る。また、光学的分析関連技術をはじめとする研究成果の知的財産化の実績は非常に高く、工学分野全般の共同研究も積極的に進める。さらに、医学や農学をはじめとする異分野との融合による研究プロジェクトを推進する。 ○ 中国・四国の地域のみならず日本の中核企業と連携し、社会の発展に貢献する。また、岡山県をはじめとする周辺地域の行政とも連携する。特に、ユネスコが推進する「持続可能な開発のための教育（ESD）」を積極的に進める。 ○ 社会人学び直しに向け、企業・官公庁と積極的に協力し、技術研

研究会や技術講習会も実施して、社会人が入学したい環境を作る。また、サテライトキャンパスやICT等を活用して社会人が学びやすい環境を構築する。

- 理工系人材の育成強化を目指し、小中高等学校と連携し、出前講義など数多く実施するとともに、国際バカロレア入試など多様な入試を実施する。